

# 店の顔としての覚悟と責任を胸に 個性的なキャラクターを目指す

2002年に「日産プリンス札幌販売 苫小牧東支店」に入社・配属後、カーライフアドバイザーとして活躍され、2013年には係長に就任した三戸綾郁さん。長身を生かして小・中・高・大学とバレーボールに打ち込み、在籍校をいずれも全国大会に導いたほどの実力の持ち主だったが、就活と同時に競技生活から卒業し、社会人として立ち立つ道へと進んだ。「給料を見比べるとほかの職種よりも条件が良かったですし、学生時代に

三戸 綾郁 (みと あやか) さん。  
白老町出身。34歳。札幌大学・外国語学部卒業。  
2002年4月入社。マイカー「キューブ」。



吸収力に優れていて、成長のスピードはこちらが驚くほど早かった」という。そんな鈴木店長は、三戸さんの実力を早くから認めた存在で、ショールームの設営やイベントの企画を一任するなど、店の顔となるべく様々な役割りをこなすよう求めてきた様子。その期待通り、三戸さんは営業成績トップのセールスマンに贈られる社長賞を2012年に獲得するなど、自他ともに認める同社のエースに成長して行くこととなった。

アルバイトで接客業をしていたこともあって、迷わず営業職を希望しました」と笑顔で振り返る。そして、就活の早い段階で、将来性も十分な自動車販売業界に的を絞ったそうだ。

その当時はまだ「女性はお茶汲みだけしていればいいから」というディーラーも少なくなかったご時勢。しかし「カルロス・ゴーン社長が最高経営責任者となられた後、一気に新車を発表しようとしていた日産は、私の目にも非常に魅力的で、強いやりがいを感じたんです」という。その思いが、同社の内定を勝ち取る原動力となったようだ。

その一方で「入社が決まってから自動車免許を取りに行きたかったですから、実はそれまでクルマには全く興味がなかったんですよ。だから知識を身につける為に苦労しました」とちょっぴりニガ笑い。しかし、三戸さんが入社2年目に初めて一緒に仕事をしたという鈴木清範店長は「今もそうですが、当時から目標が高く、そしてとにかく

「私が数年間別の支店に配属になっている間に、きっと金バッチ(営業ポイントが150ポイントを超えた社員に贈られる特別賞の別称)を取るだろうと思っていましたが、残念ながらまだ達成できていないので、ぜひそこはクリアして欲しいですね」と、鈴木店長は叱咤激励も忘れない。

「諸先輩から授かったものはもちろんですが、若い頃ブティックで働いていた経験を持つ母から貰ったアドバイスも、私にとってたいへん大きいですね。特に『あの店には、背が高くてなんだか面白い女性スタッフが居るぞ、って思ってもらえるようなキャラクターになりなさい』と言われて、自分でもそうありたいと願っています」と三戸さん。そして「私自身、日産のクルマが大好きです。だから、その思いをできるだけ短い言葉でお伝えしながら、お客様が実際に求めてられているものをしっかりとご提供していきたいですね」と、思いをあらたにしていた。



「カーライフアドバイザーのリーダーとして、責任も益々大きくなっています」と鈴木店長

【取材協力】日産プリンス札幌販売 苫小牧東支店

苫小牧市柳町4丁目6-50  
電話 0144-57-8623



# 仕事に輝く彩女図鑑

ディーラー編 Vol.10

取材・写真/青柳 健司 (フォトライター)

女性時代到来と言われる今、ビジネスの二線で生き生きと鮮やかに活躍されている「彩女(いろにょ)」。たちの思いを綴る。  
クルマをつくる人、売る人は男性が中心であった。モータリゼーションも、男性主導で成り遂げたものと言える。しかし、次世代のクルマ社会は、女性の視点や活躍なくして成長も望めないと本誌は考える。そしていま、自動車ディーラーでは女性のセールスコンサルタントやショールームレディが日々活躍し輝いている。そんな彼女たちの素顔と活躍ぶりに触れていく。

女性時代到来と言われる今、ビジネスの二線で生き生きと鮮やかに活躍されている



第10回  
日産プリンス札幌販売  
苫小牧東支店  
三戸綾郁さん